

国語

出題傾向とアドバイス

得意科目セレクト入学試験／専門学科・総合学科特別入学試験／公募推薦入学試験[A・B日程]／特待生入学試験

出題傾向

○ 得意科目セレクト入学試験／専門学科・総合学科特別入学試験

試験時間 60 分のマーク式の試験である。大問2題、小問 20 問、解答 38 個で、物語文とエッセイの読解問題で構成されている。設問は漢字、接続詞などの空欄補充問題や語句の意味を問う問題、文学史が出題されている。漢字の問題は、本文の熟語に含まれる漢字を選択肢から選ぶものであるが、選択肢に含まれない場合、二つ以上含まれる場合もあり、昨年度よりも難化している。空欄補充問題は、接続詞や副詞、文脈から読み取れる問題である。また、語句の意味を問う問題も、本文の読解を助けるものであり、文脈からも判断できるので、全体としては、文章読解の基本レベルを問う問題となっている。

○ 公募推薦入学試験[A・B日程]

試験時間 60 分のマーク式の試験である。A 日程は大問2題、小問 17 問、解答 42 個、B 日程は大問2題、小問 23 問、解答 37 個である。分野の異なる文章の読解問題が1題ずつ出題されており、設問は漢字、空欄補充問題、内容把握問題が出題されている。漢字の問題は、本文の熟語に含まれる漢字を選択肢から選ぶ問題だが、選択肢の漢字が四字熟語など難解なものや、選択肢に解答がない場合、二つ以上ある場合もあり、応用レベルであるといえる。空欄補充問題は、基礎的な知識や読解力を問うものである。内容把握問題は、出題パターンが多種多様であるが、問われている内容は基本的な理解を問うものである。

○ 特待生入学試験

試験時間 60 分のマーク式の試験である。大問2題、小問 21 問、解答 35 個で、分野の違う文章の読解問題から構成されている。設問は、漢字、接続詞を含む空欄補充問題、文学史、内容の理解を問う問題が出題されている。漢字の問題は、選択肢に四字熟語など難解なものや、解答がない場合、二つ以上ある場合もあり、やや難解な構成になっている。また、本文の内容を問う問題も、さまざまな角度から出題されており、総合的な国語力を問う問題構成になっている。全体として、標準レベルの問題であり、得点差がつきにくいので、丁寧に確実に点数を積み上げていく対策をとっておく必要がある。

アドバイス

① 漢字の問題を得点源に

漢字の問題は、大問1題につき5問ずつ出題されている。多くの配分を占めているといえるので、この問題を得点源にできるとかなりの強みになる。漢字の知識は、文章を読む基礎となり、社会人となってからの教養の土台ともなるので、多くの知識を習得しておいて損はない。漢字の問題集を少なくとも一冊、完璧に仕上げて知識を積み上げよう。まずは読めない漢字をなくす、同音異義語などを選ぶようにすることを目指し、繰り返し見直すことが大切である。漢字を覚えるときには、漢字の意味を考えながら、また、熟語の使い方なども確認し、少しでも語彙を増やすことを心がけよう。また、四字熟語も出題されているので、漢字と意味を確認しておこう。漢字は、国語学習の中では、やればやるだけ得点につながる分野なので、しっかり時間を取って学習しよう。

② 空欄補充は本文を読みながら解く

読解問題の解き方に正解はないが、空欄補充問題は、最初に本文を読むときに空欄に該当する設問の選択肢を確認しながら読むと、本文が理解しやすいことが多い。選択肢には必ず正解が含まれているので、解きながら読んでいき、通読した後で細かい確認をしながら設問を解いていくと、見直しをすることもできる。選択肢は、文脈から読み取らなければいけないものもあるが、対になる言葉を入れたり、前に出てくる内容を熟語で言い換えたりすることも多い。そのときに必要なのは、語彙力である。何となく知っている言葉、知らない言葉をそのまませず、こまめに調べる習慣をつけよう。そして、その言葉だけでなく、反対語、言い回しなども確認して、正しい言葉を正しく使えるように普段の生活から心がけていけば、語彙力だけでなく、読解力もついてくるはずだ。

出題傾向

○ 一般入学試験[前期A・B日程]

A・B日程ともに、心情読解と論理的文章の2題が出題されている。試験時間 70 分、出題形式は、マーク式と記述式の両方がある。マーク式の出題であっても解答には「最適なもの」を選ぶ場合と「あてはまらないもの」を選ぶ場合があり、注意が必要である。記述式の出題では、

- ・漢字の読み取り（A日程）と漢字の書き取り（B日程）。
 - ・「～とはどういうことか。」50 字以内で記しなさい。（A日程）
 - ・「この言葉に続けて、それぞれ 15 字以内で原因と結果を表す例文を考えなさい。」（B日程）
- などがある。

マーク式では、適語選択形式の出題が多く適語選択・内容理解・慣用表現などがよく問われている。選択肢の中には「寓話」（A日程）や「可及的」（B日程）という表現もあるので、注意したい。

○ 一般入学試験[後期]

試験時間 60 分、出題数 35 問、前期A・B日程とは異なり全てマーク式の出題である。出題されているのは、心情読解と論説文の2題という点では前期A・B日程とは同じである。心情読解では、再婚する母を祝福する心情がつづられている道徳的な文章で、一般的な国語長文とは趣が異なっている。論理的文章では、哲学的な内容が問われており、出題されている文章の難易度が高い。出題内容は細部の読解とテーマ理解・語彙・表現技法であり、この点では前期試験と共通である内容も多いといえる。

アドバイス

① 文章に合わせて、ポイントを考えながら解く

本学の2つの長文は、「心情読解」がすべての試験に共通して出題されている。心情読解については、会話・動作・心情描写・風景描写などに注意して、時間の経過とともに心情の変化を読み取る。このようにして、登場人物たちのさまざまな立場や心情を読み取っていく。

「論理的文章」では、筆者の主張と例を読み分けて、論理の展開に注意しながら読み進め「結論」を読み取る。今回の論説文の語彙では、「三次元的空間表現の拒否」（前期A試験）「マネー資本主義」（前期B試験）「事物の教育」（後期試験）などがある。これらの語句が本文を読みにくくしているので、日ごろの学習から語彙力の獲得は意識して学習を進める必要があるだろう。

このように、文章ジャンルによって、読み取りのポイントがあることを理解し、これらの確認として問題が作成されていることを意識しながら演習を重ねるとよいだろう。

② すべての日程の問題を解く

一般入試は、前期A・B日程と後期の3つの入試問題があるが、出題形式について、語彙の出題、慣用的表現を含めた国語の基礎力を問う出題など、ある程度の共通点がある。

また、出題される本文も「心情読解1問」と「論理的文章1問」と構成も変わらないため、全ての日程の問題を解くことが試験対策として有効である。その際に、

- ・時間を測って一度解いてみる。
- ・答えを合わせて、間違えた箇所についてよく考えてみる。
- ・知らない表現や語句については、出題されているかどうかによらず、丁寧に辞書を引いて確認しておく。

これらの3点に注意して過去問題を解いていくとよいであろう。